

年があらたまり、迎えた三学期の保育
日数は六十日足らず。子どもたちの三学
期は日々満ち満ちて、陽溜まりに遊ぶ子
の柔らかな表情は、寒風に走る子の輝く
瞳は、確かな未来を約束してくれる。自
然がこの季節に春を約束してくれるよう
に、この頃の子とも達は、私に「希望」
を教えてくれる。先生方、両親をはじめ、人に愛され、慈しまれて、小さな小
さな芽を結ぼうとしている。

(二月某日 日記より)

昨年の四月号から隔月ごとに連載して
くださった、鮑田典子先生「臨床の現場
から子育てを考える」浅野恵美子先生
「南の島の子どもたち」が、先、今月号
で終了いたします。わかりやすい具体例
と共に多くの示唆を与えてくださった両
先生に心よりお礼を申しあげます。また、
両先生は(昨年十二月号で連載を終わら
れた堀内守先生も)、この「幼児の教
育」誌の部数拡張のためにいろいろとお

知恵を貸してください、私、新米編集員
をいつも励ましてくださいました。あり
がとうございました。

土屋とく先生編「保育の原点を探る

倉橋惣三「保育法」講義録」が前号から
始まりました。土屋先生も文中でいつて
おられるように「頁を繰るうち、私は胸
の高まりと感動を抑えることが出来なか
った。そこには『保育法』の講義内容
が、生の声そのままに一言半句おろそか
にせず細密に記録されてあった。と同時
に私自身、長い間疑いの域を出なかつた
幾つかの事柄が、明快に説かれていたか
らである。」(本誌88巻一月号)

教育改革が叫ばれている昨今、「変わ
ることと変わらぬこと」(同M・H・
氏)への論議が、この講義録を読まれた
方を中心に静かに広がることを期待して
います。地域で、保育所で、幼稚園で、
そして研究者の間で。

今年も、子どもの近くにいる大人とし
て良い一年になりそうです。(Y)

幼児の教育 第八十八巻 第二号

二月号 ©

定価 四〇〇円

一九八九年 一月二十五日 印刷

一九八九年 二月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

TEL・二九二一七七八一(代)

◎本誌御購読についての御注文は発売
所フレイベル館にお願いいたします